

図書館だより

発行：千葉市図書館 <http://www.library.city.chiba.jp/>

主な内容

[3面]「おはなし会」のお知らせ

[4面] TMK！図書館マナー向上

千葉市中央図書館

千葉市中央区弁天3-7-7 ☎ 043-287-3980
 みやこ図書館 白旗分館 (043-233-8333) (043-264-8566)
 花見川図書館 花見川団地分館 (043-250-2851) (043-250-5111)
 稲毛図書館 西都賀分館 (043-254-1845) (043-254-8681)
 若葉図書館 泉分館 (043-237-9361) (043-228-2982)
 緑図書館 あすみが丘分館 (043-293-5080) (043-295-0200)
 美浜図書館 土気図書室 (043-277-3003) (043-294-1666)
 移動図書館 打瀬分館 (043-287-3983) (043-272-4646)

特集

「千葉市」を読む

千葉市ゆかりの作家や、千葉市が登場する作品には、どのようなものがあるかご存知ですか？

最近では、千葉都市モノレールのラッピングで話題になった作品を思い浮かべる方が多いかもしれませんね。実は、千葉市ゆかりの作家や千葉市が登場する作品は、古いものから新しいものまで多くあります。

この特集では、これらの作品について、一部ではありますご紹介します。この機会に、千葉市にゆかりのある作品を読んでみませんか？

『千葉市が登場する作品』
 『花見川のハック』(1994年／角川書店)
 花見川の岸辺に秘密基地を作つていつものように一人で遊んでいた小学生のハックは、ある日、モーター・ボートを乗り回す男たちと喧嘩になる。ハックは、京都のお婆ちゃんから届いた加茂ナスと一緒に、彼らの隠れ家を探して川を上流へ遡つていく。話の中に花見川や弁天橋などが登場し、ハックの見た景色を思い浮かべながら読むことができる。



花見川と弁天橋

↑このあたりは花見川渓谷と言われ、豊かな自然の風景が残る地区である。写真右上の橋は弁天橋といい、平成7年に現在のものに架け替えられた。

日下
圭介昭和15(1940)年1月21日
平成18(2006)年新
人
賞

千葉市が登場する作品

椎
名
誠

昭和19(1944)年6月14日

新
人
賞

千葉市が登場する作品

新
人
賞

『千葉市が登場する作品』
 『花見川のハック』(1994年／角川書店)
 花見川の岸辺に秘密基地を作つていつものように一人で遊んでいた小学生のハックは、ある日、モーター・ボートを乗り回す男たちと喧嘩になる。ハックは、京都のお婆ちゃんから届いた加茂ナスと一緒に、彼らの隠れ家を探して川を上流へ遡つていく。話の中に花見川や弁天橋などが登場し、ハックの見た景色を思い浮かべながら読むことができる。

《受賞歴》

昭和50(1975)年 第21回江戸川乱歩賞

『蝶たちは今…』(1975年／講談社)

昭和57(1982)年 第35回日本推理作家協会賞短編賞

『鶯を呼ぶ少年』(1982年／徳間書店)

『木に登る犬』(1982年／講談社)

『海辺の骨』(ミスティーロ日本地図／ミスティーロ大全集2)収録／1989年／新潮社)

ある男と女のミステリー。花見川の下流にある美浜大橋の近くで、千葉市の海寄りにあるマンションに住んでいる女と、この女の知り合いが、白骨化した左手首を発見した。後日、警察から女へかかってきた電話をきっかけに、女は、白骨の事件の犯人を特定するが…。

《千葉市が登場する作品》

『鶯を呼ぶ少年』(1982年／徳間書店)

『木に登る犬』(1982年／講談社)

『海辺の骨』(ミスティーロ日本地図／ミスティーロ大全集2)収録／1989年／新潮社)

べりの町に家族と一緒に引っ越してきた初代パチ。父が死に、兄が結婚し、母は陽気になり、主人公である三男はその中で成長していく。3代目チヨが死んで犬の系譜が絶えた時、主人公から見た家族は…。三代の犬を軸に何気ない日常や心情などが丁寧に描かれている。

『アメンボ号の冒険』
(1999年/講談社)

花見川の河口付近の町に住む4人の少年たちが、花見川を上流から下流へ手作りのいかだに乗つて下る冒険を描いた短編。

卷末に資料提供先として、こてはし図書館(現・花見川図書館)が掲載されている。



花見川図書館

庄野潤三 大正10(1921)年2月9日~
平成21(2009)年

大阪府大阪市出身。1946年、島尾敏雄らと同人誌「光耀」を創刊。中学、高校の教師、朝日放送のプロデューサーをしながら小説を書く。1954年『プールサイド小景』により芥川賞受賞、文筆生活に入る。1957年ロックフェラー財団の奨学金で米国オハイオ州ガービアに留学した。

人間生活の日常における微妙な危機の相をどうえた作品が多く、惜しまれつつ88歳で亡くなつた。

『受賞歴』
昭和29(1954)年 第32回芥川賞
『静物』など
昭和35(1960)年 第7回新潮社文学賞

『千葉市が登場する作品』
『流れ藻』(1969年/新潮社)

主人公は、血の気が多いが面倒見がよく周囲に好かれる近雄と、従順で気働きはないが、シンの強いところがある照代の若夫婦。近雄は5年勤めた会社の出世を断つて退社し、鮨屋を開業する。その夏に海の家を出そうと計画するが、長期予報がよくないと知ると、鮨屋にうなぎ部を併設し、大当たりする。

どこか気まぐれで思うさまに生きている、若い市井の人々の姿が描かれている。

現在の中央区(大森町、院内、白旗等)や、県内が舞台となつている。



昭和40年代の中央区

↑『流れ藻』のなかで夫婦が勤めていた会社「レストラン上総」のモデルとなつた、千葉市銀座通り中央にあった「ギンレス」(写真中央)。

結城五郎 昭和18(1943)年~

東京都出身。千葉大医学部を卒業後、市内で内科医を開業。1984年から小説を書き始め、1989年「作家」同人、1992年「小説家」同人となる。医療のあり方、人にとって望ましい死に方とは、をテーマに、人間の心の闇を描く作品が多い。

『受賞歴』

平成5(1993)年 第2回小谷剛文学賞
『その夏の終わりに』(1994年/架空社)

平成10(1998)年 第15回サントリーミスティード賞

『心室細動』(1998年/文藝春秋)

『千葉市が登場する作品』

『白衣の神様』(2012年/角川春樹事務所)

病院を舞台にした5編の人間ドラマ。医療に携わる人々の姿を感動的に描いている。

5編のなかの「雪解け」は、製薬会社に勤める主人公佐藤直樹が千葉宮業所に転勤になり、以前出入り禁止になつた武居医院に再度、取引契約をとるよう命じられる。最初はまったく相手にされない主人公だが、誠実な態度により、少しづつ武居医院長の心を開かせてゆく。

中央区で評判の鰻屋、市内に流れる夕刻の時報メロディー等、千葉市に住んでいる人なら誰でも思い浮かべることができる作品。

難病と闘いながら一日一点、その日に出会つた身近なものを画材として描いた画文集。

1983年より生きる証として一日も休まず日々の出会いの感動を描いている。その作品からは、病と闘いながら、小さなものに感じる喜びや生き抜くことの素晴らしさなど、毎日を大切に生きる著者の姿が見えてくる。

作品の中には、著者が北部図書館(現・稻毛図書館)に来館した記述もみられる。



稲毛図書館

子ども読書の日記念 図書館のおはなし会

子ども読書の日(4月23日)にちなんで、親子おはなし会と外国語おはなし会を開催します。
お薦めする本の展示と一覧表の配布も行います。当日先着順で無料です。ぜひご参加ください。

4月19日(土) 中央図書館
3・4歳児 11:00~11:30
5歳児~小学生 15:00~15:30
定員 各回30人

4月19日(土) みやこ図書館
3~6歳児 10:00~10:30
小学生 11:00~11:30
定員 各回40人

4月16日(水) 白旗分館
3歳児以上 15:30~16:00
定員 20人

4月25日(金) 花見川図書館
1~3歳児 11:00~11:30
4歳児~小学生 16:00~16:30
定員 各回30人

4月23日(水) 花見川団地分館
3歳児~小学生 15:30~16:00
定員 40人

4月25日(金) 稲毛図書館
3~6歳児 15:15~15:45
小学生 16:15~16:45
定員 各回30人

4月25日(金) 若葉図書館
3歳児以上 15:30~16:00
定員 30人

4月19日(土) 西都賀分館
3・4歳児 10:00~10:30
5歳児~小学生 10:45~11:15
定員 各回20人

4月26日(土) 泉分館
3歳児~小学生 11:00~11:30
定員 30人

中央区

花見川区

稲毛区

若葉区

4月25日(金) 緑図書館
2・3歳児 11:00~11:30
4歳児~未就学児 15:30~16:00
小学生 16:00~16:30
定員 各回36人

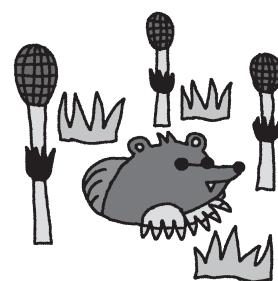
4月23日(水) あすみが丘分館
1~3歳児 11:00~11:30
4歳児~小学生 15:45~16:15
定員 各回30人

4月19日(土) 美浜図書館
3・4歳児 10:30~11:00
5歳児~小学生 11:30~12:00
定員 各回40人

4月24日(木) 打瀬分館
3歳児以上 15:30~16:00
5歳児~小学生 16:00~16:30
定員 各回30人

緑区

美浜区



外国語おはなし会

「英語で楽しもう！絵本の世界」

英語で絵本の世界を楽しんでもらうための
おはなし会を開催します。

4月20日(日) 中央図書館
5歳児~小学生 15:00~15:30
※親子での参加も可
定員 30人



レンタレンス事例 (37)

千葉の「紐解き」・「帯解き」のお祝いについて 知りたい。

千葉県の冠婚葬祭の特徴として、小さな集落単位で様々な儀式や行事が行われています。子どもに関する儀式や行事は七歳までが圧倒的に多く、『千葉県の歴史 別編 民俗1』(千葉県 1999年)によると、「三歳・五歳・七歳を成長の節目と考え、これを祝う風習は古くからあって、県内各地でさまざまな儀礼が行われてきた」とあります。

その中で、特に、七歳のお祝いを「紐解き」または「帯解き」といい、県内でお祝いや行事が催されています。「紐解き」・「帯解き」は、それまで着ていた紐付きの着物から、帯を締めて大人の着物を着る祝いの儀式です。

祝い方は県内各地で様々ですが、『わが家の安心箱』(千葉日報社 2003年)によると、「千葉県内では、子どもの七歳の紐解きのお祝いと浅間神社への参詣が結びついている地域が多いようです。」とあります。

例えば、『千葉市史 第3巻 現代編』(千葉市 1974年)には、千葉市院内では、「三歳、五歳、七歳、特に七歳のときには、稻毛の浅間様へお参りに行つた。」とあります。また、『日本の民俗 12 千葉』(第一法規 1974年)には、「佐倉市内田では十一月十五日嫁の実家から着物などが贈られ、出発する時には村人から餞別をもらい、千葉市の千葉神社にお参りした。昔は千葉神社に参ったあと、千葉の出洲海岸に行き海に入り、帰るとみやげを配つた。」とあり、「紐解き」・「帯解き」のお祝いで、神社への参詣の様子がわかります。

TMK! 図書館マナー向上

この「一ナーナーでは、「小さな心がけで、より居心地のいい図書館をみんなで作っていきたい」という思いから、図書館を利用いただく際に、皆さんに心がけていただきたいことをお伝えしていきます。

※タイトルの「TMK」は、「図書館マナー向上」の略です。

第2回 予約取り置き期限にご注意を

予約資料は、受け取りを指定した図書館に用意ができると、利用者の方に連絡をしています。

「予約された資料の用意ができました」と連絡を受け、しばらくして図書館に取りに行ってみたら、取り置き期限切れでキャンセルとなっていたという経験をされた方もいらっしゃるのではないかでしょうか?

千葉市図書館では、図書館の資料をより多くの方に利用してもらえるよう、「予約資料の取り置き期限は、連絡を受けた日から1週間」としています。

予約資料が取り置き期限切れでキャンセルになると、予約された方はもちろんですが、図書館としても残念なことです。もし、予約資料の取り置き期限内に、「もう読んでしまった」「必要としていた日までに届かなかつた」など、予約資料が必要なくなった場合は、お早めに図書館へご連絡ください。特に、予約の多い資料については、早いキャンセルのご連絡が、次の予約されている方への早い資料のご用意とご連絡に繋がります。

また、「取り置きの期限を忘れてしました。」「どうしても取り置き期限までに取りに行くことが難しい」という場合には、図書館にご相談ください。皆様のご協力を、よろしくお願ひします。

広告募集

図書館だよりへの広告を募集しています。

規 格: 90mm×90mm
掲 載 場 所: 4 頁目 の 一 部
発 行 部 数: 5,000 部 (1 号 あ たり)
広 告 掲 載 料: 10,000 円 (税込み)

図書館ホームページへの広告を募集しています。

広告掲載料 (月額)
・トップページ 5,000円(1枠1か月、税込み)
・検索ページ 10,000円(1枠1か月、税込み)

お問い合わせ先: 千葉市中央図書館管理課
電話 043-287-3980